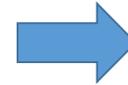


ごみ袋有料化制度の効果について

有料化の背景

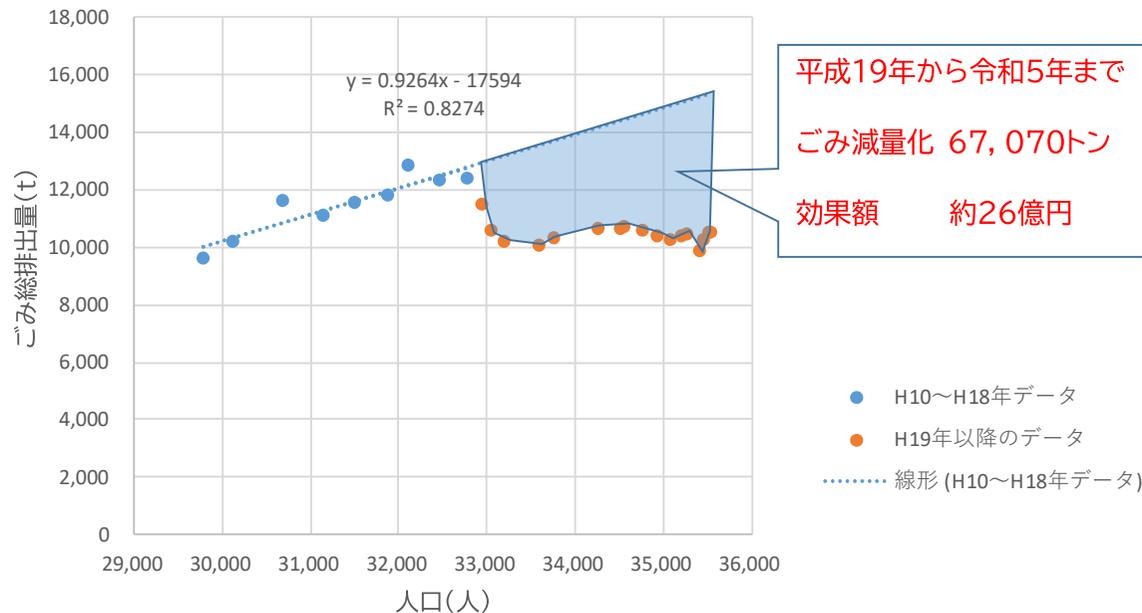
- ・ごみの減量化の推進
- ・ごみの資源化の推進
- ・負担の公平性の確保



ごみ処理費用の圧縮の他、持続可能なまちづくりとしてリサイクルの推進や温室効果ガスの削減を図ることができる。

施策の評価

ごみ総排出量と人口の回帰直線と実際のごみ総排出量の比較



平成19年から令和5年まで
ごみ減量化 67,070トン
効果額 約26億円

予測値と比べ、17年間で
67,070 トンのごみを減量。
(年平均 3,945トン)

効果額は、約26億円※

※効果額は、費用単価(維持管理費等(円)/ごみ総排出量(t))×ごみ総排出量回帰予測値(t)により算出した仮想の費用と実際の費用を比較。

ごみ袋有料化制度の導入の結果
一定の効果があったと評価できる。

ごみ袋有料化制度について

有料化の背景

有料指定ごみ袋は、平成 19 年 9 月に次の 3 点を主な目的として導入されました。

- ・ごみの減量化の推進
- ・ごみの資源化の推進
- ・負担の公平性の確保

これらを推進することで、ごみ処理費用の圧縮の他、持続可能なまちづくりとしてリサイクルの推進や温室効果ガスの削減を図ることができます。

施策の評価

有料指定ごみ袋を導入してから、令和 5 年までの 17 年間で施策の評価をしたところ、回帰分析による予測値と比べて、約 6 万 7 千トンのごみを減量でき、その効果額は約 26 億円となりました。

この評価から、指定ごみ袋の有料化は、ごみの減量化や経費削減に大きな効果があったと考えています。

有料化に伴う収入等の活用

有料化に伴う収入や削減された経費は、廃棄物の処理やリサイクルのための資金として活用しています。

ごみのリデュース、リユース、リサイクルによって、環境への負荷を軽減する循環型社会を構築する取り組みは、全国的に展開されており、本町につきましても、住民の皆様、事業者の皆様の御協力を得て、これらの取り組みを推進する必要があります。